

2021年度 現場点検において確認された「良好な取組み」

- 気象・海象の把握と共有
- ドローンを活用した安全管理
- 安全意識の高揚
- ソーラーパネル電源で現場詰め所を運用

日本建設業連合会 安全委員会 海洋安全部会では、海洋工事現場の安全衛生、環境対策の推進のために全国の海洋工事現場から毎年数カ所を選び所属委員による点検を実施しています。

その際に、点検委員が確認した「良好な取組み」について取り纏めたものを紹介いたします。

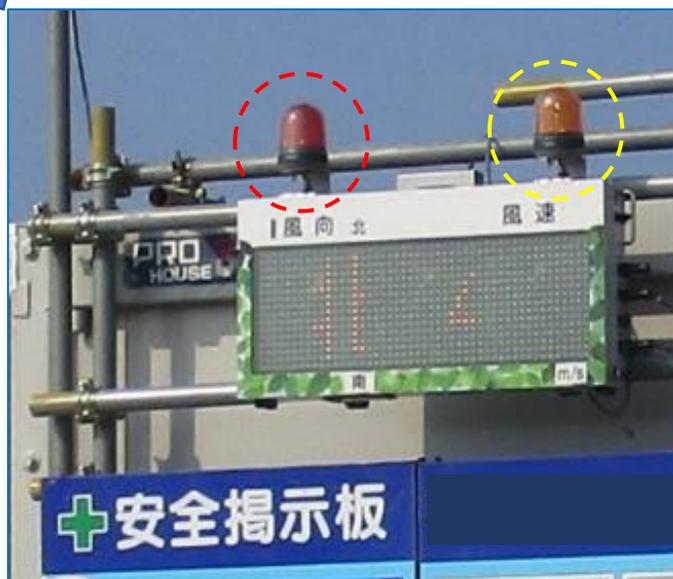
■ 気象・海象の把握と共有

■ 気象・海象の把握については、港湾海洋沿岸域情報提供センターの気象情報、船舶情報、防災情報などを参考に、民間のウェザーニュース等からも情報の収集に努め、局所的な気象・海象の急変にも対応できるよう準備されていました。

また、当該情報は日々の安全打合せ時に関係者に共有されていました。

■ クレーン作業、潜水作業など作業に応じて中止基準を定めていました。

特に、風向風速はデジタルで大きく表示し、誰もが見やすく（瞬時に判断できるように）工夫されていました。



◆ 電光掲示板パトランプ（赤・黄）点灯のタイミングは、作業の中止基準等に合わせて設定する。

◆ 風向・風速計の計測値はwebサーバーに保存され、パソコンやスマホからどこにいてもリアルタイムのデータを確認できる。

また、過去のデータにより数値の増加・減少傾向も確認できる。

◆ 24時間稼働している。また電源はソーラーハウスを活用している。

■ ドローンを活用した安全管理

■ 広大な作業区域の詳細を作業員に分かり易く伝えるため、ドローンによる垂直写真を活用していました。

また、ドローン使用時には、講習終了者を管理責任者に任命して社内ルールに準じ飛行計画及び飛行記録が丁寧に作成・保管されていました。



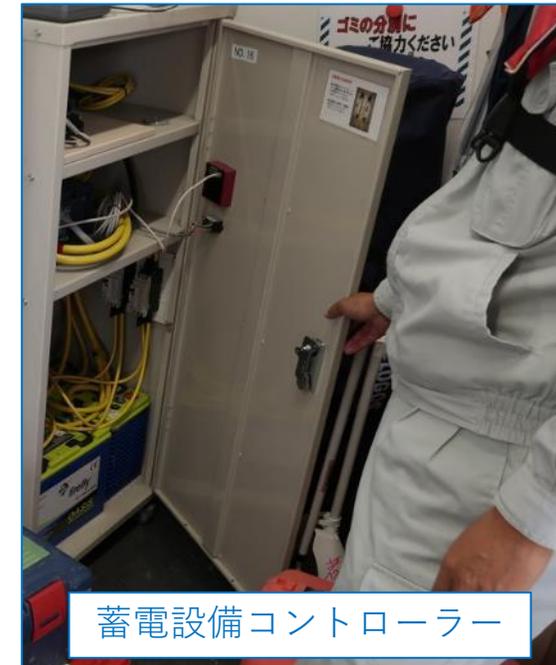
■ 場内・船内掲示物および表示は適切に表示され、古い物や色褪せ等による不鮮明なものは見当たりませんでした。

店社の支援により作業員が常時見ることができるよう、災害事例やA3サイズの安全コラム（あんかん瓦版）等を休憩所付近の掲示板の見やすい位置に掲示して安全意識の高揚が図られていました。




■ソーラーパネル電源で現場詰め所を運用

- 詰め所の使用電力をエアコンも含め全て太陽光パネル＋蓄電設備で供給していました。
- 商業電源が利用できない港湾等の現場で、発動発電機を使わないことから給油不要であり、給油時の油流出リスクを排除できています。
- 環境負荷低減、CO2削減への取組としても良いものでした。



蓄電設備コントローラー



確かなものを 地球と未来に

一般社団法人 **日本建設業連合会**

JAPANESE FEDERATION OF CONSTRUCTION CONTRACTORS

安全委員会 海洋安全部会